

## 視野を広げよう



Malaysia

木原 信吾

高崎市立矢中中学校

群馬県

- 担当教科：数学
- 実践教科：総合的な学習の時間、道徳
- 時間数：7時間
- 対象：中学1年生
- 対象人数：96名

### (1) 授業実践のテーマ・目的

- ・ 途上国に関心を持ち、日本と違う文化・習慣などの理解を深める。
- ・ 国際協力の重要性について考える。
- ・ 青年海外協力隊として活動した人から直接話を聞き、興味関心を高める。
- ・ 自分自身の今後のあり方・生き方について考える。
- ・ パーム椰子を題材に環境と生活のシレンマについて考える。

### (2) 授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	<b>【世界を旅しよう①】</b> 途上国に関心を持ち、日本と違う文化・習慣などの理解を深める。  (総合：1学年3学級各クラス)	・フィリピンの写真を紹介することで、何をしている所か理解をする。 ・6グループになり、それぞれ別の途上国の写真を1枚ずつ見ていく。 ・1枚ずつ何をしているところか考え、模造紙に書く。5枚見たところでどこの国かも考える。 ・グループごとに写真と模造紙を使って感じたことを発表する。	・JICA フォトランゲージキット、解説資料 ・模造紙
2	<b>【世界を旅しよう②】</b> 途上国に関心を持ち、日本と違う文化・習慣などの理解を深める。  (総合：1学年3学級各クラス)	・6グループの写真を順番に解説資料を使って紹介することで、実際には何をしているところか理解する。 ・ワークシートに感じたことをメモする。 ・マレーシアの紹介(イスラム教の特徴、発展しているクアラルンプール、ボルネオ島固有種のテングザル、スマトラ島とボルネオ島のみにも生息するオランウータン)	・ワークシート ・マレーシアの写真
3	<b>【国際協力の重要性について考える①】</b>  (総合：1学年全体)	・前時のワークシートに書いた感想の紹介をすることで、同級生のいろいろな考えに気づく。途上国に何かできないかと考えるようになる。 ・先進国の日本が途上国に対してどのような活動をしているか、資料を使って理解する。	・生徒の感想のまとめ ・「GUIDE TO JICA」 「エッセイコンテスト2008 優秀作品集」 「JICA 地球ひろば ご利用のご案内」 ・ワークシート
4	<b>【国際協力の重要性について考える②】</b> <b>【講演会講師の活動を事前に理解する】</b>  (総合：1年各学級にて担任より)	・前時のワークシートに書いた感想の紹介をすることで、同級生のいろいろな考えに気づく。知る(視野を広げる)にとどまらず、考え行動することが大事だと理解する。 ・講師の活動の意義を知り、次時の講演会に興味を持つ。	・生徒の感想のまとめ ・講師の活動をまとめた資料

5	<b>【講演会「国際理解について～日本を出て感じたこと～」】</b> 青年海外協力隊として活動した人から直接話を聞き、興味関心を高める。自分自身の今後のあり方・生き方について考える。 (総合：1学年全体)	講演内容 (3) 授業の詳細参照  お礼の手紙を書く。 強制ではなく、書きたい生徒のみとした。	・世界地図 ・アジア地図 ・スライド ・ワークシート
6	<b>【講演会を振り返る】</b> <b>【国際理解教育・開発教育のまとめ】</b> (総合：1年各学級にて担任より)	・前時のワークシートに書いた感想の紹介をすることで、同級生のいろいろな考えに気づく。自分がこれからの生活で将来どうしていくべきか考えることができる。	・生徒のお礼の手紙のまとめ
7	<b>【僕らがスナック菓子を食べると、テングザルやスマトラゾウが絶滅する!?パーム油について】</b> 油ヤシを題材に環境と生活のシレンマについて考える。 (道徳：1年3組)	・パーム油(油ヤシ)について学習する。 ・マレーシアのパーム油がスナック菓子として日本の私達に届くまでの生産と消費の関係を理解する。 ・熱帯雨林が破壊され、テングザルやスマトラゾウが絶滅するのは誰がいけないのか考える。 ・誰かが特別いけいけではなく、それぞれの立場が周りのことも考えて行動しなければならないことがわかる。	・パーム油が使われている製品(食品・生活用品・容器) ・テングザルとスマトラゾウの写真 ・油ヤシの木・実の写真 ・パーム油の学習資料 ・生産と消費の関係図 ・ワークシート

### 【3】授業の詳細

#### 1次限目：【世界を旅しよう①】

- ・授業の一場面 (マリの写真を見て)
- ・この学習での約束
  - ①自分の考えを持ち、進んで表現しよう。
  - ②グループで協力して話し合い、まとめ、発表しよう。
- ・進め方
  - ・どんな写真が写っているか？(何をしているところ？これは何？)
  - ・感じたこと・気づいたことを模造紙に油性ペンでどんどん書こう。
  - ・細かいところ、端の方まで見てみよう。
  - ・正解でなくても良い。わからなかったら想像で書こう。
  - ・考え・意見がいくつも出た場合は、全て書こう。

#### 【写真を見てグループで考えたこと】

##### 【写真①】について

- ・ちょっときたなくて狭いところで、子どもたちが椅子無しで勉強中。
- ・先生が赤ちゃんをだっこしている。
- ・貧しい暮らしをしていそう。

##### 【写真②】について

- ・演奏している。 ・楽しそう。
- ・人がいっぱいいる。
- ・子どもが銃を持っている。
- ・家が土でできている。
- ・木製のたいこがある。
- ・町の人の子が深そう。

【写真①】



【写真②】



**2 時限目：【世界を旅しよう②】**

1 時限目に模造紙に書いたコメントと比べながら、実際には何をしているところが解説をする。生徒のいろいろな予想が引き出されて面白い。実際の解説を聞いて驚く姿も興味深い。テレビなどからの情報も多いので、生徒が見たことのある写真もあった。

**・授業の一場面（マリの写真を見て）**

	生徒の予想	実際
写真①	先生が赤ちゃんを抱っこしている。	先生は左の男性。昼間働く女性が夜に読み書きを習っている。彼女たちが子どもの頃は村に学校もなく、勉強する機会がなかった。自分たちで作った野菜や工芸品の売上の管理に、読み書きが必要になったため。この教室は日本の NGO の援助で運営されている。
写真②	演奏している。楽しそう。	村の合同葬式。故人の家族である少年たちが死者の魂を慰めるために鉄砲を持っている。1 年間で死んだ人々の葬式を村人全員で行う。子どもたちが様々な祭りに参加することで、村社会の仲間入りを果たす。

**3 時限目：**

**【国際協力の重要性について考える①】**

**前時のワークシートに書いた生徒の感想**

- ・日本に無いようなことがたくさんあって面白い。わかったらもっと奥のことまで知りたくなった。
- ・国によって様々な生活があった。独自の文化や習慣を大切に生活していることがよくわかった。
- ・自分達の考えを話し合っ、知恵を絞って暮らしていることがわかった。
- ・日本は水もちゃんときれいに出てくるし、こんな文句ばかり言ってちゃ駄目だなと思った。
- ・それぞれの国によって生活が違うが、その国にとってはそれぞれが「普通」であることが知れた。
- ・決して豊かではないのに、幸せそうに笑っているのがすごく印象的だった。
- ・各国の人々は自分達の国の文化を大切にしてい、一生懸命働いているので幸せでいると思う。

- ・日本人がいろいろな国の人に技術を教えていると聞き、日本の文化・技術は進んでいると思った。
- ・全ての国が平等になって欲しい。少しでも他の国が裕福になれるように協力していきたい。

**4 時限目：**

**【国際協力の重要性について考える②】**

**【講演会講師の活動を事前に理解する】**

**前時のワークシートに書いた生徒の感想**

- ・小さな事から世界を変えていきたいと思った。
- ・口先だけでなく、実行できる人になりたい。
- ・私にも何か協力できることがあると思った。私も海外に行ってさまざまな経験をしたかった。
- ・世界には学校に行けない子が多くいると知り、これからは面倒くささらずにしっかりしようと思った。
- ・視野を広げるという事はとても大切なことだと改めてわかった。
- ・外国が貧しいのではなく、日本が裕福なだけかもしれないと思った。
- ・少しでも多くリサイクルして、無駄を少なくするよう心がけたい。
- ・日本だったら治る病気で亡くなってしまう人がいると知り、もっと視野を広げたいと思った。
- ・今まで「世界のことなんかどうでもいい。日本が豊かならいいや」と思っていたが、国際協力の仕事をする人たちがいることを知り「私も世界に協力しなければ」と思うようになった。
- ・井戸を作ったり、学校に行けない子供達を助けたりする青年海外協力隊の仕事はすごいと思った。これからは困っている人達を少しでも助けられるように、私も何か役に立てることをしたいと思う。
- ・いらなくなったランドセルでも、貧しい国の子ども達の役に立つなんて初めて知った。いらなくなったものだったら誰でも参加できるから、いろいろな人達がやり始めたら良いと思った。
- ・「世界の4分の3の人達が多くの問題を抱えて生活している」ということが一番印象に残った。これから大人になっていく中で、こういった人達が一人でも減るようにする努力をしたい。

- ・学校でユニセフ募金をしたりするだけで貧しい国の人達の役に立っていると思っていた。けど世界の中にはまだまだたくさんの人達が貧しい生活をしていることがわかった。これからは、自分でできることを考え、もっとたくさんの人役に立ちたいと思った。

### 5時限目：【講演会「国際理解について ～日本を出て感じたこと～】

青年海外協力隊経験者を講師として招いた。

#### 【講演内容】

- ・なぜ青年海外協力隊員、日本語教師になろうとしたのか
- ・青年海外協力隊時代のスライド
- ・マレーシアの紹介
- ・世界で共通のこと
- ・日本と違うところ
- ・息子さん（現在青年海外協力隊としてケニア赴任中）の話
- ・人生の選択肢について 等

### 6時限目：【講演会を振り返る】 【国際理解教育・開発教育のまとめ】

前時の講演会のお礼として書いた生徒の手紙（一部）

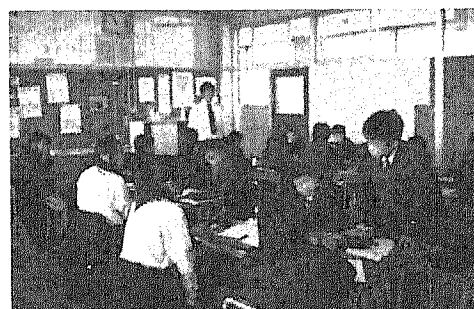
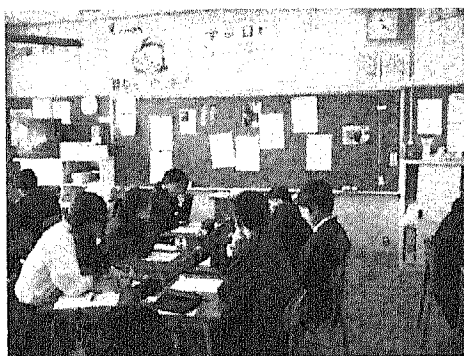
- ・今自分がこうして生きられることに感謝する気持ちを忘れてはいけないと思う。
- ・貧しい＝不幸ではないことがわかった。今自分が見ている世界はとても狭いと思った。
- ・小さな事からでも何か始めて、世界の困っている人を助けたいと思った。
- ・テレビで途上国を見ると「大変だな」と思うが、自分が実際にそこに行ってボランティアをしてみようとは思えなかったけど、実際に現地でボランティアをしている人がいるのを知り感動した。
- ・自分から役に立とうと思うこと、世界に目を向けることの大切さがとてもよくわかった。
- ・世界の生活の厳しい現実を実感できた。学校に通っている人は将来を選べるが、そうではない人

- は将来を選べないということが一番心に残った。今日のことを、将来で生かせたらいいと思う。
- ・自分の好きなこと・得意なことを活かして、途上国の子供達の心の支えになれるなんて素晴らしいことだと思った。
- ・講師の方が最後に言った「自分の居場所はここだけじゃない」という言葉に感動した。将来私も誰かの役に立てるような活動をして行きたいと思う。
- ・「未来の道を選べない人がいる」という言葉がとても心に残った。私はせっかく未来の道を選べるのだから、世界の人々の未来を明るくし、喜んでもらえるような道を選びたい。

### 7時限目：【パーム油について】

- ・日常的にある食品・生活用品・容器を見せる。
- ・「実はマレーシアとつながっている！」「どこがつながっているのか？」と投げかける。
- ・パーム油（油ヤシ）について学習する。
- ・油ヤシの木・実の写真を見せ、日常的にある食品・生活用品・容器に使われていることを理解する。
- ・パーム油が植物性油の1つとして年々生産量・消費量が増えていることを知る。
- ・日本のパーム油は全て輸入であり、その90%をマレーシアに頼っていることを知る。
- ・日本とマレーシアがパーム油でつながっていることを理解する。パーム油の使われ方・メリットを知る。
- ・マレーシア固有のテングザルとアジアゾウの亜種スマトラゾウの写真を見せる。
- ・パーム油の生産量を増やすために油ヤシの農園を広げようとするすると熱帯雨林を伐採する必要があり、その結果、テングザルやスマトラゾウの住みかが破壊される。このことを理解する。
- ・マレーシアのパーム油がスナック菓子として日本の私達に届くまでの生産と消費の関係を理解する。

いろいろな立場	それぞれの主張や境遇など
僕たち消費者	いろいろなものが身近にあり便利、暮らしやすい
日本のメーカー	石油系からの転換、植物製品の方が地球に優しい、保存しやすい・においない、消費量増えている
農場主（農園の経営者）	需要が増えたので、森を切って農園を広げ、働く人を増やしたい
農民（労働者）	他の土地から移住させられた貧しい労働者たち
マレーシア・インドネシア政府	パーム油（油ヤシ）は貧しい我が国にとって貴重な収入源・働く場
環境団体	このままでは動物が減るので、一刻も早く伐採をやめるべきだ
森の先住民	先祖伝来の暮らしを続けたいので、森を切らないで欲しい



#### 〔4〕 授業実践を終えて

授業実践の度に振り返りとして生徒に感想を書いてもらいました。感想を読む度に予想もしないような素晴らしい考えがいくつもありこちらが驚かされました。生徒たちは難しい内容に対しても、深く真剣に考えてくれました。「中学生の若さあふれる感覚・感動できる気持ち・新鮮な想いは素晴らしい」と改めて思いました。準備は大変でしたが、生徒の感想を読む度に毎回楽しく授業をさせていただきました。

ねらいとしていた「視野を広げる」は少なからず達成できたと思います。今後さらに生徒も自分自身も「世界や自分の周りのことに興味を持ち、視野を広くし、考え行動できる人」になれるよう、実践を続け、より良いものにしていきたいと思っています。

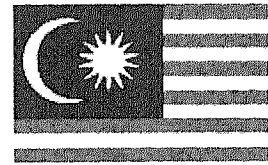
#### 〔5〕 参考文献（引用文献・参考資料）

- 『GUIDE TO JICA』 独立行政法人国際協力機構 2008
- 『エッセイコンテスト 2008 優秀作品集』 独立行政法人国際協力機構 JICA 地球ひろば 2009
- 『JICA 地球ひろばご利用のご案内』 独立行政法人国際協力機構 JICA 地球ひろば 2009
- 『パーム油のはなし「地球にやさしい」ってなんだろう?』 開発教育協議会 2002
- 『NHK 地球データマップ 世界の“今”から“未来”を考える』 日本放送出版協会 2008
- 『ヤバタファームホームページ』（<http://yabatafarm.com>） 2009/11

#### 〔6〕 使用教材

- 『JICA フォトランゲージキット』 独立行政法人国際協力機構 2001

## コミュニケーション・文化について考えよう



Malaysia

栃木県

星 聡美

那須塩原市立箒根中学校

- 担当教科：英語科
- 実践教科：学活、道徳
- 時間数：2時間×2クラス
- 対象：中学2年生
- 対象人数：53名

### 〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・多言語の国マレーシアの例から、自分のコミュニケーションを振り返り、相手を思いやるコミュニケーションを大切にしようとする気持ちをもつことができるようにする。
- ・異文化への興味関心を高める。

### 〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	<b>【コミュニケーションについて考えよう】</b> 多言語の国マレーシアの例から、自分のコミュニケーションを振り返り、相手を思いやったコミュニケーションを大切にしようとする気持ちをもつ。  (学活：2年)	・パースデーラインアップ ・コミュニケーションの方法について考える。(ブレーンストーミング) ・マレーシアの写真や新聞などを見て、気付いたことを話し合う。 ・自分がこのような国に住むとしたら、うまくやっけていけるかを、質問にイエス、ノーで答え、その理由も話し合う。 ・授業を通して感じたことや気付いたことをワークシートに書く。	・模造紙 ・記入用紙(付箋) ・新聞、写真 ・ワークシート
2	<b>【文化について考えよう】</b> 文化について生活の様子のエピソードやフォトランゲージから考える。  (道徳：2年)	・マレーシアの写真を見たり、話を聞いたりしてマレーシアと日本の違いを考える。 ・自分が日本について紹介するとしたら何を紹介したいか、また、その理由も考える。 ・授業を通して考えたことや気付いたことについて考える。	・写真 ・ワークシート

### 〔3〕授業の詳細

1 時限目：  
【コミュニケーションについて考えよう】

#### ○ 題材設定の理由

今日は国際化社会と言われる。その中で、人と人とのコミュニケーション能力は重要である。本題材は、学習指導要領では、「学級活動(2)適応と成長及び健康安全の内容のイ、自己及び他者の個性の

理解と尊重、才、望ましい人間関係の確立」に関わる。まず、他国の文化を理解し、相手を尊重しコミュニケーションをとることで望ましい人間関係を築くことができるようにと設定した。

#### ○ 指導観

生徒は学級編成から半年が経ち、学級の雰囲気になじんで、明るく元気に生活している。生徒数も少なく、顔見知りで、仲良く生活している場面も多いが、時には相手の気持ちを考えずに発言してしまうこともある。学級生活は、様々な生徒がいるため、

いろいろな立場に立って相手の気持ちを尊重しつつコミュニケーションがとれるようにすれば、さらに円滑な人間関係が築けると考える。また、今まで外国語の学習を通して、海外の話題に触れたり、会話活動をしたりしてきたが、その場面について深く考える経験はそう多くはない。

そこで、本時では、多言語の国家であるマレーシアの事例や資料を提示し、コミュニケーションを図る際に、互いを理解して相手を思いやった言葉を選ぶことや、言語だけではなく、表情やしぐさなども気持ちが伝わる手段であることに気付かせたい。この学習を通して、学級生活で、相手の気持ちを尊重しつつコミュニケーションがとれるようにし、よりよい人間関係を築かせ、外国語の会話にもその態度で臨めるようにしたい。

## ○ 展開

### 1 アイสบレークの活動を行う。

#### (1) パースデーラインアップ

全くしゃべらないで、誕生日順に並んで輪を作る。

- ・ 雰囲気や和らげるための活動として行う。
- ・ 言葉を使わないルールを設定し、ジェスチャーなどで自分の思いを伝えたり、相手の思いをくみ取ったりすることに気付かせる。

#### 発問

どうやって言葉を使わないで輪を作ることができましたか？

#### 生徒の反応

- ジェスチャー
- 相手の目を見て(アイコンタクト)
- 身振りや手振り

(2) コミュニケーションの方法だと思えるものをブレンストーミングでできるだけたくさん用紙に書き出す。

- ・ 4人1組のグループを6グループ作る。
- ・ それぞれがコミュニケーションの方法だと思えるものを次々とあげ、付箋に書いていく。
- ・ 思いついたものを書いた付箋を、模造紙に貼り付けていく。
- ・ グループごとに発表する。

- ・ 発表で出てきたものを教師が板書する。
- ・ コミュニケーションの方法の中で言語を使うものを全員で確認し、教師が○をつけていく。
- ・ ○のつかなかったコミュニケーションの方法について気付いたことを発表させ、コミュニケーションの方法としては、非言語コミュニケーションが多いことに気付かせる。

#### 生徒の意見

- |           |          |           |
|-----------|----------|-----------|
| ・ テレパシー   | ・ ジェスチャー | ・ キャッチボール |
| ・ のろし     | ・ ハグ     | ・ モールス信号  |
| ○ 歌       | ・ 絵      | ・ アイコンタクト |
| ○ 会話      | ・ 詩      | ・ 字       |
| ・ 片目を閉じる  | ・ 花火     | ・ 点字      |
| ・ 握手      | ・ 手紙     | ・ 表情      |
| ○ 言葉      | ・ ダンス    | ・ ふれあい    |
| ・ 音       | ・ 旗      | ・ 合図      |
| ○ マサイ族の動き | ○ あいさつ   | ・ ロパク     |

#### 生徒の反応

「モノを使う」「目で見る」「体を使う」コミュニケーション方法があることに気付いた。

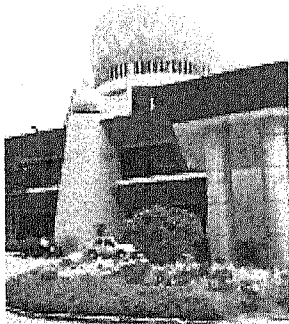
### 2 グループでマレーシアの新聞や写真を見て、気付いたことを話し合う。

- (1) 新聞(マレー語、英語、中国語で書かれたもの)や写真を見て、使い方やどんな物なのかを考える。
- ・ 自分たちの生活との違いに気付かせながら見るようにする。
  - ・ 写真から他民族国家であることに気付かせる。
  - ・ 新聞や買い物袋から様々な言語があることに気付かせる。

#### 寺院の写真







看板の写真



(2) 全体で発表し、どうしてそう思ったのかについても話す。

#### 生徒の反応

「同じ国の新聞なのになんで言語が違うのだろう？」  
 「多民族国家だから？」  
 「日本のことも記事になっている。」  
 「絵(切手)にいろいろな国の人がいる！」  
 「賞味期限の標記が日本と違う！」  
 「宗教がたくさんある!？」

3 自分がこのような国に住むとしたら、うまくやっていけるかを質問にイエス、ノーで答え、その理由も話し合う。

- ・自分の考えによって場所を移動するように伝える。
- ・移動した場所でお互いに意見を共有できるようにする。
- ・この全体で意見を共有できるようにする。

→◎自分のコミュニケーションを振り返り、相手を思いやったコミュニケーションを大切にしようとする気持ちをもつことができる。

※ 言葉の観点から、相手を思いやったコミュニケーションを大切にしようとする気持ちをもてるようにアドバイスする。

#### 生徒の反応

● はい  
 「外国へ行ったことがあるので、やっていけると感じた」  
 「病院などの仕組みが違ったりするので興味がある」  
 ● いいえ  
 「文化が違う」「習慣も違って難しそう」  
 「言葉が違うから難しそう」  
 ● どちらともいえない  
 「言葉の壁が気になる」「日本に住んでいたい」  
 「なかなか変えるのは大変な気がする」

4 授業を通して感じたことや気付いたことをワークシートに書く。

- ・この活動で気付いたことを書かせる。

#### 生徒の感想

「コミュニケーションについて考えよう。」  
 ~この授業を通して考えたことや気付いたことを書こう~  
 ● 外国というのは、日本とは文化と環境も違ってコミュニケーションをとりにくそうかなと思った。とれたとしても難しいなと考えました。



- 言葉は通じなくても、コミュニケーションをとる方法はたくさんあるので他の国でも住んでいけるかなと思った。
- 外国に住みうまくやっていると聞かれたら、僕はどちらともいえないのほうを選択すると思います。英語を使う手段もありますが、その他にもジェスチャーなどを利用すればコミュニケーションはできると思います。しかし、自分と同じ日本語を主に活用する人が少ないと自分は精神状態が保てないと思います。しかし、この授業を通じコミュニケーションの大切さを知りました。
- マレーシアは色々な国の人が集まっていることが分かりました。新聞もたくさん種類があって驚きました。自分がこのような国に住むとしたらうまくやれないと思いました。理由は言葉も文化も全く違ったりして不安になってしまうからです。でも言葉が通じなくてもコミュニケーションなどでうまくやっているとわかったので住めるかもしれないと思いました。
- 国も違って言葉も通じない見ず知らずの人々とふれあうためには、まずその国について知らなければいけないと思った。また、コミュニケーションをとるのはとても大変だと思っていたけどその方法は意外とたくさんあり外国でも暮らせるかもと思った。
- コミュニケーションの方法を学び、それを通して世界についても考えることができました。コミュニケーションは世界の人々との言葉の壁も乗り越えていけるものなのだと思います。
- 他の国に行っても言葉が通じなくてもコミュニケーションをとる方法は他にもたくさんあるし、体を使って会話をすることもできるということを今日の授業で学ぶことができた。
- 言葉が通じなくても伝える気持ちがあれば伝わる。

## 5 まとめ

- ・教師のコミュニケーションのエピソードを話す。  
(挨拶の際に手を胸に当てるしぐさに感動した体験、ホームステイ先のホストファミリーとハグをしてお別れをした暖かい体験、電話で相手の顔が見えない状況での交渉の難しさを感じた体験など。)

## 2 時限目：【文化について考えよう】

### 1 マレーシアの写真を見たり、話を聞いたりしてマレーシアと日本の違いを考える。

#### 生徒の反応

- トイレの上にシャンプーが乗っている。
- 公衆トイレなのになんで人がいるんだろう。お金の表示がある。公衆トイレはお金がかかるの？
- トイレの隣にシャワーがある。
- 交差点がロータリー式になっている。
- 車のエアコン、クーラーだけ？

### 2 自分が日本について紹介するとしたら何を紹介したいか、また、その理由も考える。

#### 生徒の反応

- 世界遺産の東照宮を紹介したい。
- 日本の温泉も紹介したい。日本らしいから。
- お風呂につかる習慣。他の国の人々が自分たちの習慣が当たり前だと思っていることが、逆に日本から考えたら変わっているのだから、日本のことを紹介したら驚くと思うから。
- 日本食。知ってもらいたいから。

### 3 授業を通して考えたことや気付いたことについて考える。

#### 生徒の反応

- 公衆トイレに入るのにお金がかかることにびっくりしました。
- トイレットペーパーがないことにびっくりしました。
- マレーシアには冬が来ないので車にヒーターがないのを知ってなるほどと思いました。
- 日本と違った文化で驚くことがたくさんありました。
- 日本の文化に興味をもってもらいたいです。
- マレーシアにはマレーシアのおもしろいところがあると思いました。
- 外国ではその地域にあわせていろいろ工夫されていることが分かりました。

## 〔4〕授業実践を終えて

### ○ 成果

- ・生徒の柔軟な意見を引き出すことができた。

### ○ 課題

- ・生徒の「気づき」を促すために資料をさらに厳選する必要がある。
- ・生徒たちの身近な生活のなかにまで入り込んで考えさせる必要がある。
- ・自分がコミュニケーションを取る際に苦労したことをうまく伝えられるとよかった。

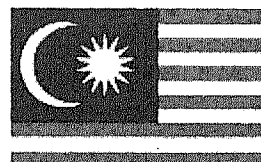
### ○ 感想

単に、コミュニケーションとはこういうものだ。とこちらが一方向的に押しつけるのではなく、生徒の「気づき」を大切にし、相手に考えるきっかけとなるように手法を工夫しながらねらい（伝えたいこと）にせまることが大切だということをこの研修を通して学ぶことができました。これからも普通の授業の中でもこの考えをもちながら進めていけたらいいと思います。

## 〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

- 『教室から地球へー開発教育・国際理解教育虎の巻 人が育ち、クラスが育ち、社会が育つ』  
開発教育・国際理解教育アクションプラン研究会 東信堂 2006

## お互いを理解するために大切なことは？



Malaysia

後藤 恭子

千葉県 千葉市立打瀬中学校

- 担当教科：英語
- 実践教科：英語、学活、道徳
- 時間数：4時間
- 対象：中学2年生
- 対象人数：34名

### 〔1〕授業実践のテーマ・目的

友達ともめ事を起こすことが多くなっている生徒達を見て、マレーシアを題材に、自分たちもお互いを理解するために大切なことは何かを考えてほしいと思い、テーマとして設定した。

授業実践では次の2つを目的として掲げた。

- ①自分の周りだけでなく、世界という視点で、お互いを理解するのに必要なことは何か考えさせる。
- ②自分にとって大切なことや物は何か問うと同時に、1人1人大切なものは違い、それを否定するのではなく、認めることが大切だと考えさせる。

### 〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【導入：先生が行った国はどこでしょう？】 マレーシアという国について知り、考える  (学級活動)	・グループでポストカードを見せ合い、先生が行った国はどこか当てる。 ・マレーシアはどういう国だと思うか。ポストカードから想像させる。 ・マレー半島とボルネオ島の話をする。	・マレーシアから送った、34枚分の暑中見舞い用ポストカード ・マレーシアの地図 ・テナガザルのぬいぐるみ
2	【展開①：マレーシアの文化についてもっと知ろう！】 ・日本と違うマレーシアの文化的背景について知り、大切にしている物や事があることを認める。 ・友達の意見を聞き、さまざまな考えがあることを認める。(道徳)	・マレーシアについて知っていることがあるか聞く。 ・3枚の寺院の写真を見せる。 ・多文化が共生するマレーシアの人たちが上手につきあっていくためにはどうしたら良いか、実際にどうしていると思うか。	・ワークシート(自作) ・3枚の寺院の写真 ・マレーシアで集めてきた、ハラルマークの入ったペットボトルやお菓子の袋
3	【展開②：自分が国を持ち、お金のデザインを考えるとしたらどうする？】 自分にとって大切な物は何か考えさせる。  (学級活動)	・日本のコインの絵は何が描かれているか思い出させる。 ・どうしてこの絵が描かれたのが、考えさせる。 ・マレーシアのコインを見せ、説明する。 ・自分が国を持ち、自分の国のコインのデザインを考えるとしたら、何を描くか考えて紙に描かせ発表させる。	・マレーシアのコイン ・日本のコイン ・白い紙
4	【展開③：自分とマレーシアの友達との考え方を比較してみよう！】 生徒達自身がマレーシアの生徒と同じ考えや違った考えを持っていることを理解する。  (英語)	・比較級 more、最上級 most を使った表現の導入。 ・日本の生徒とマレーシアの生徒の Best 5 を当てるゲームを行う。 ・英語で感想を書かせる。 (無理なら日本語でもOK)	・マレーシアでとったアンケートとクラスでとったアンケート ・フラッシュカード(解答を書き裏返しにして使う) ・英語ワークシート(比較級・最上級)

### 〔3〕 授業の詳細

1 時限目：

【導入：先生が行った国はどこでしょう？】

マレーシアは多文化が共生する国である。マレー半島とボルネオ島とは町の雰囲気も人種も考え方も違う。国の名前以外はマレーシアのことを全くといっていいほど知らない生徒達に「参加型学習」という形で世界の国の1つとして興味を持ってもらいたかったので、ポストカードを使った。1人1人に違うポストカードをマレーシアの色々な場所で買い集め、マレーシアから送った。

授業ではマレーシアから届いたポストカードを持ってこさせ、グループでポストカードを見せ合い、どこの国かを考えさせた。家族で考えた生徒もあり、マレーシアという国名はすぐに出てきた。

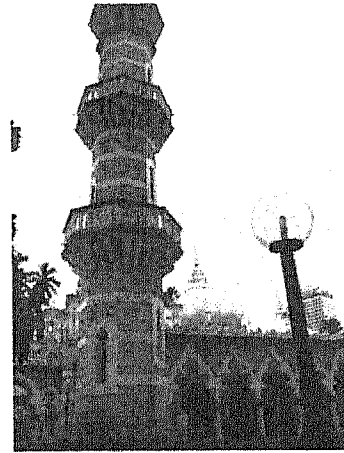
次にマレーシアはどういう国だと思ふかをポストカードから想像させた。高いビルのポストカードもあれば、食虫植物、また水上にある家のポストカードもあり、どういふ国なのだろうかと、生徒達はとまどっていた。最後にマレー半島とボルネオ島の違いの話をした。

2 時限目：【展開①：マレーシアの文化についてもっと知ろう！】

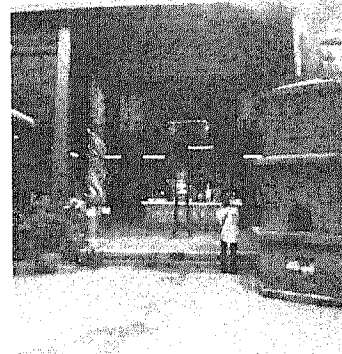
ポストカードから知ったマレーシア。次はもっと奥深く、マレーシアについて話した。宗教や生活様式、同時に他宗教の人たちがいるマレーシア人がどうやって人間関係を築いていっているのか。マレーシアの人たちを題材に生徒達自身のこととして考えられるように手法を工夫した。

まず3枚の寺院の写真を見せ、どれがマレーシアの寺院なのかを考えさせた。

【3枚の寺院の写真】（実はどれもマレーシアにある寺院）



【イスラム寺院】



【中華系寺院】



【インド系寺院】

続いて、ハラルマーク（イスラム教徒が食べてもよいとされる食材、調理方法を使用したという証）の紹介と説明をし、日本との文化の違いを説明し、その後、【フォトランゲージ】や【4つのコーナー】といった開発教育手法を用いマレーシアの共生文化について考えた。



【ハラルマークが付いている商品】

マレーシアの文化的背景について知り、日本人の自分がマレーシアに行って長期滞在できるかできないか、理由も考えさせ、自分の価値観振り返りワークシートにまとめた。

4つのグループに分けたとき、自分の考えを通すことなく、考えを書き直した生徒がいた。結局、「どちらかと言えばできる」という女子チームと、「どちらかと言えばできない」という男子チームに分かれてしまった。発問の仕方に注意するべきだったと後で反省した。

生徒の反応

【どちらかと言えばできる】

- どうしても行かなければならないなら、何とかかなと思う。
- 慣れれば大丈夫
- 住めば都! ?かな。
- 自分は絶対無理だけど、慣れれば大丈夫な人もいるんだと思った。
- 絶対無理だって決めつけるのはおかしい。
- 日本と違った習慣には抵抗がある人が多いと思った。
- 色々な理由があって面白いと思った。
- 日本人は便利な暮らしに依存しているのでは。失敗を恐れているように思った。

【どちらかと言えばできない】

- 日本語が通じない国に行って生活するなんて無理。
- 文化の違いでもめ事がすぐに起きそうだから面倒。
- いちいち宗教を気にしなければならいので面倒。

最後に、文化が共生したマレーシアの人たちがお互い上手につきあっていくためにはどうしたら良いか、実際にどうしていると思うかを考えさせた。

生徒の感想

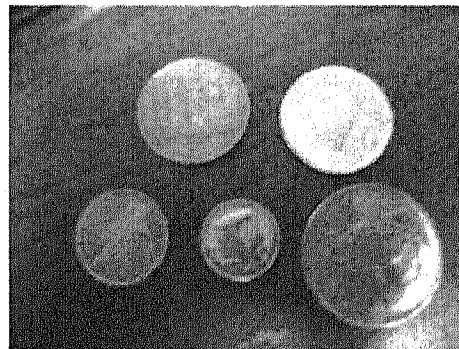
- 言葉じゃなくても、優しい気持ちで接したり、スポーツを一緒にしたりして仲良くなれると思う。
- マレーシアの人たちは宗教の違いをその人の個性と思い、別に気にしていないのだと思う。
- お互いの文化を尊重したり、平等にして、あまり差別がない、他人についてよく考えていると思った。
- 僕たちもマレーシアの人たち、いや、世界中の人たちと信頼を築きたいと思った。
- 価値観の違う人に対し、自分たちの考えを押しつせず、思いやりがあるのだと思う。私たちも考え方が違う人や、気が合わない人も中にはいると思うけど、その人に、自分の意見を押しつせず考えてあげられたら、マレーシアの人たちのようにいい人間関係が築けると思う。
- 人の宗教や考え方を理解して、尊重していけば、ぶつかり合いはなくなると思う。自分を基準にせず、色々な人がいることが当たり前になっているからうまくいっていると思う。
- 宗教により、やらなければいけないことや、やってはいけないことをみんなでフォローして、政府もシールを作ったりして、みんなが住みやすいように工夫しているからうまくやれているのだと思う。

3 時限目：

【展開②：自分が国を持ち、お金のデザインを考えるとしたらどうする？】

日本のコインの絵は何が描かれているか思い出させ、どうしてその絵が描かれたのかを考えさせた。コインに描かれる絵は、その国にとって大切にしたい(している)ものと考えられる。マレーシアのコインを見せ、そこに描かれている絵を説明した。

その後、自分が国を持ち、自分の国のコインのデザインを考えるとしたら、何を描くかを考えさせて描かせ、10分後に5人グループになりアイデアを発表させた。



【マレーシアのコイン】

「考えることが面倒くさい」「発想力のない」生徒達にとって、始めは友達のものを見ながら、同じものを描いている生徒が多かった。しかし、グループになると色々なアイデアが出てきたせいか、消して描き直す生徒も多かった。

友達や家族の絵を描いている生徒が多かった。日本人だけでなく、様々な人種が手をつないだ絵の生徒もいた。また、携帯電話などがあった。大好きな漫画の登場人物を描いた生徒や、自分の国民にもっと世界を見て欲しいと地球儀を描いた生徒もいた。授業後の感想では「似たようなものを描く人もいるけど、人によっていろいろ大切にしているものは違うのだなと思った」とあった。

#### 4時限目：【展開③：自分とマレーシアの友達との考え方を比較してみよう！】

ボルネオ島にあるセントマイケル中高一貫校（中1）でのアンケートと、日本の生徒34人のアンケートをふまえて、以下の項目でBEST5をクイズにした。

1. あなたにとって大切なものは何？
2. 何のために学校へ行くのか？
3. 人気の漫画は何か？

マレーシアのアンケートと日本の生徒のアンケートで合計6問の質問項目とし、5位のもののみ解答がわかるように書いておき、5位以上の項目を当てるゲームである。当たった班に1位4点、2位3点、3位2点、4位1点、のポイントが入り、マレーシアの生徒の項目を当てたら2倍にする。

グループになり、各グループ1名ずつ立ち、答えを言ったら、グループ内の別の1名が立ち、全員がKeyセンテンスである、

「--is more important (popular) than --for us (Malaysian students)」を言わせた。

(例) マレーシアの生徒	日本の生徒
1. Friends	1. Friends
2. Music	2. Family
3. Family	3. mobile phone

4. green/nature
5. mobile phone

4. Games
5. TV

#### 【4】授業実践を終えて

1番の反省点は、新聞(その国が使っている文字、マレーシアの場合3言語で書かれたもの)、文化がわかる写真(寺院、ハラルマークなど)、マレーシアの楽器など、色々な視点からもっと資料として物を集めてこられたということ。マレーシアにいるときは、集めていたつもりでも、授業をする時になって、これがあつたらよかったなど思うことが多かった。

また、授業実践をしてみて、私自身が生徒たちに様々なことに気づかされた。

#### 【発問の仕方をよく考えること】

2時限目の授業で「日本人の自分がマレーシアに行って長期滞在できるかできないか」という発問で考えを4つに分けたが、自分一人で行った場合と、家族で行った場合なのか、と具体的な指示をしなかったため、混乱し、周りの生徒と意見を適当に合わせる生徒がいた。発問は具体的に、的確にしなければならなかったと感じた。授業後の感想で、一人ならどちらかと言えば自信がないが、家族といくなら自信がある。いろんな文化や人を知りたいし、知らないと国際社会で活躍できないから。「今は無理だけど、自分が英語を話せる自信がいたら、将来、生活してみたい」と書いた生徒もいた。

#### 【共有することの大切さ】

生徒があまり手を挙げない。自分の意見を発表しない。そんな時は学級通信や掲示物として、みんなの意見を伝えるようにした。いろいろな生徒の学びを共有することで、様々な視点で物を見るよい勉強となった。

#### 【ファシリテーターとしての役割】

教師として、自分が生徒のために行わなければならないことは「生徒に考えさせること」であり、「教え込む」ことではない。私自身、この研修でファシ

リテーターについていただき、「答えは必ずしも先生の口から言う必要はなく、生徒達の中にある」という考え方を教えていただいた。ねらいをしっかりと定め、思いを伝えるだけで、生徒は生徒自身で答えを見つけてくれる。教育の原点を教えてもらった気がする。

今回は「お互いを理解するために大切なこと」というテーマで行い、自分が体験したほんの一部のみを授業で「料理」したという感じだったが、これから3年生になり、英語の授業でも様々なテーマで自分のマレーシアでの体験を引き出し、生徒に考えさせることができると感じた。

中学3年生の英語の教科書には「環境問題」をテーマにする課や、「ブータンで働く青年海外協力隊」

を紹介し「国際協力」について考えさせる課もある。また、「アンネフランクの日記」の「平和教育」についても、私自身がマレーシアで考え、体験したことについては授業で「料理」することができる。この半年だけでなく、今後の英語教育、もしくは道徳教育の中でも紹介し、生徒に考えさせたいと思っている。

開発教育は「共に生きることのできる、公正な地球社会の実現をめざす」教育である。地球規模の諸問題や現状を知り、構造的要因を考え、自分たちはどのように行動していくべきかを追求していける実践をこれからも生徒達と共にしていきたい。

また、「開発教育は、私たちひとりひとりの実践から始まる」という言葉も常に心に留めておきたい。

## 〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

- 『学校が元気になるファシリテーター入門講座－15日で学ぶスキルとマインドー』  
ちよんせいこ 解放出版社 2009
- 『先生とNGOが手をつないだ！地域で作る国際理解教育』（財）福島県国際交流協会 2008
- 『平成20年度 教師海外研修 授業実践報告書集』 JICA 地球ひろば 2009
- 『地球の歩き方 マレーシア』ダイヤモンド社 2008
- 『開発教育/DEAR ホームページ』（<http://www.dear.or.jp/index.html>）

## 〔6〕使用教材

- 『生徒に送った34種類のポストカード』【1時限目使用】
- 『ハラルマークの入ったペットボトルやお菓子』【2時限目使用】
- 『マレーシアのコインの説明に使った写真』【3時限目使用】